

読売新聞 2018年(平成30年)8月14日(火)

単身赴任の父 気持ちはそばに

大学生 向井 美月 20
(奈良市)

父が仕事で7月から単身赴任をすることになった。母と私と妹は奈良にとどまった。嫌でも顔を合わせていた父が居ない日々には、違和感を覚える。

家族思いの父。母のことが大好きであきれる時もあるが、夫婦仲が良いのは憧れでもある。そんな父が一人で生活するのは心配だった。でも、父はほぼ毎日母と連絡を取り、なぜか私たちの行動も知っていて、「雨がひどいから早く家に帰れ」などと連絡が来る。

気持ちはすぐそばにあると感じ、家族の大切さを再認識した。父が奈良へ戻るころには、私は社会人だろう。胸を張って出迎えたい。

*無断転載不可